

大荒田交通公園SL整備による 郷土と鉄道の関わりと地域貢献

【団体名】 わらてつ倶楽部

【担当部署】 都市整備部 道路公園課

【提案型】 自由テーマ

【協働の形態】 補助

1. 事業の目的

SL整備による文化財保護意識の啓発

大荒田交通公園のC11-304号機は、蕨市で保存されてから45年もの間、子供たちを見守り続けてきた。SLの保存活動やSLまつりの実施を通じ、蕨市のこの貴重な鉄道遺産を恒久的に維持・整備を続け、蕨市内外へ保護意識の啓発を図る。

2. 実施内容

SL清掃・塗装他

場 所：大荒田交通公園

日 時：平成28年6月12日（日）

内 容：SL周辺の雑草の除去作業

日 時：平成28年10月30日（日）

内 容：SL車体の下部や除煙板のさび落としの後、再塗装を行った。

日 時：平成28年11月20日（日）

内 容：SL柵内及び柵外に堆積した枯葉の除去。汽笛の鳴動試験を行った。

日 時：平成28年12月17日（土）

内 容：SLまつりの準備を兼ねて運転室内や乗降箇所を中心に清掃を実施。取り外しが可能になった柵を着脱したり、前照灯を点灯したり本番前のセッティングを行った。その他本来のSLの機能である「空気溜め」の利用を検討し、コンプレッサーから空気を汽笛に注入、十分に圧縮された空気を汽笛に送ることで、現役の時と同等の音色や音量を出すことが可能になった。

日 時：平成29年3月26日（日）

内 容：本年度最後の清掃を実施。総会を開催し、本年度の活動を終了した。

わらてつまつりへの協力

日 時：平成28年7月2日（土）、3日（日）

会 場：蕨市立文化ホールくるる、旭町公民館、JR蕨駅他

内 容：わらてつ倶楽部メンバーによる写真展や募金、活動紹介を行った。「電車ごっこ」では、細部のディテールまで凝った車両から心のこもった可愛い車両まで様々な作品がそろい、まつりを盛りあげた。クイズラリーのサポートや会場の案内・誘導も行った。

S L 柵の改良工事他

日 時：平成28年11月16日（水）

場 所：大荒田交通公園

内 容：固定されていたS L 周辺の柵を着脱可能にする改良工事を行った。今後S L まつりの祭り際には、自由に見学することが可能になった。

S L まつり開催

日時：平成28年12月19日（土）

会場：大荒田交通公園

内容：保育園児や幼稚園児の親子連れを中心に延べ600人が来園。寒い時期のため短時間での開催にもかかわらず、毎年来園者が増えている。S L 運転室の公開では、昨年よりも「現役」に近い汽笛を来園者自身で鳴らすことで「生きているS L」を身近に感じてもらえた。柵が外されたことで自由なアングルでの撮影ができ、点灯した前照灯も含めて大変好評であった。オリジナルグッズ（マグネット）の効果もあり、昨年以上に売り上げがあった。その他昨年同様にプラレールで遊ぶコーナーの設置やドリンク販売を行った。



3. 役割分担

団体：S L 保存活動及び周辺清掃の実施、わらてまつりへの協力（企画/運営面）

SLまつりの開催、イベントを通じた文化財保護の啓発活動
市：活動へのアドバイス、経費補助、公園使用許可、市広報紙やホームページへの掲載

4. 事業費と主な支出内容

- (1) 事業費：総額270,000円
(うち蕨市協働事業補助金135,000円)
- (2) 支出の主な内容
備品費、消耗品費、通信費、保険料、印刷製本費



5. 協働による効果

【わらてつ倶楽部】

平成28年度の協働事業では、SL周辺を囲っていた柵の一部を取り外し可能にした。これまで柵が邪魔となりSL全体を見ることは出来なかったが、柵を取り外したことで、様々な角度から全体を見ることが出来るようになり、SLまつりでは親子連れなど来園者の皆さんが思い思いにシャッターを押していたのが印象的だった。なお、このSLまつりでは、来場者が3年間の協働事業期間中で最大の600人(26年度300人、27年度450人)を超え、大荒田交通公園の冬イベントとして一定の認知度を得たと感じる事が出来た。

【道路公園課】

SLを愛する団体ならではの専門性や柔軟性のある活動により、SLまつりは大盛況となった。行政だけではなしえないものであり、協働による効果は大きい。

6. その他の成果・感想・今後の課題など

【わらてつ倶楽部】

公園内に錆だらけで放置されていたC11-304号機は、この3年間の協働事業により、再塗装されてピカピカになり、前照灯も点灯し、汽笛も鳴るようになり、期間限定だが柵も取り外せるようになった。協働事業による保存活動で、その存在さえも忘れられていた「鉄のかたまり」は、掃除を行っているだけで小さい子供たちが近づいてくる、SLまつりでは運転台に上りたくて長蛇の列ができる、そんな魅力のある存在に戻ることが出来たのだと思う。今後は保存維持活動の恒久的な継続を目標に、文化財としてのより一層の周知を行っていこうと考えている。

【道路公園課】

わらてつ倶楽部によるSLの整備・維持管理などの活動、市による広報やホームページへの掲載等での周知や経費補助、協働が生む相乗効果によって、鉄道ファンだけではなく、多くの親子連れが訪れる大変にぎわいのあるまつりが行われる素晴らしい事業とすることができたと感じている。